

平成16年8月25日
第5号

素流協 News

平成16年8月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(652)7227

岩手県の素材生産事業の 活性化に向かつて

―留意して置きたい事柄―

県産材の地産地消の促進や需要拡大に対する要望が強く叫ばれるようになってから久しいが、依然としてわが県に置ける素材生産活動は沈滞している。かつて岩手県の素材生産量は、昭和五十年代の半ばから昭和六十年代にかけて年間一七〇万㎡前後の実績を示してきたが、その後平成三年頃から生産量が減少し始めてついに平成十五年には九十万㎡まで落ち込んでいる。一方、岩手県の森林蓄積の現状は、民有林、国有林合わせて約二億㎡であるが、そのうち民有林の蓄積の増加が著しく、年間三八〇万㎡ずつ増え続けている。ただし、この毎年増加している蓄積量すべてが伐採できるわけではない。なぜならば、この年間蓄積増量は、幼令林を含めた全森林の

ものであるから伐採適期に達した森林の蓄積量がどの位あるかというところが重要になってくる。岩手県では戦後の拡大造林が昭和二十年頃から活発になり、昭和三十五年頃には一万三千七百ha、昭和四十四年度には一万四千五百haの新植を実施している。これらの造林地が今後続々と伐採適期を迎えることになる。岩手県における民有林の森林蓄積の増加趨勢と年齢配置の現状を考えると、今後毎年二百万㎡ずつ伐採しても過剰伐採とはいえないであろう。というよりむしろ、今後は間伐を含めて伐採量を増やさなければ、森林の持つ多面的な機能を十分に発揮できる健全な森林資源を造成・維持することができなくなる。わが県の森林・林業がおかれているこのよ

うな現状を打開するべく素材生産活動を活性化させるためには、大量に生産された素材を適正な価格で安定的に供給できる販路が不可欠となる。この販路の確保については、素材流通協同組合が組合員各位の協力を得つつ一層の努力を傾注していくことにするが、ここでは素材生産者側の立場から、素材生産活動の活発化を促進するときに留意すべき事柄を挙げてみる。素材生産事業の事業内容は、「立木調達段階」、「素材生産段階」、「素材流通（運搬）段階」に大別される。

(1) 立木調達段階

素材生産事業は、生産者が自分の持ち山を伐採するのではない限り立木を購入することから始まる。そして、この立木調達の首尾がその後の素材生産事業の結果の成否を左右することになる。では、どのような問題点が存在するのであろうか。

① 近年、立木価格が下落低迷を続けていることから、森林所有

者が立木を手放さないので素材生産者側にとって原木調達に難儀をしている。

②国有林・県有林のように公的所有の森林の立木処分については、公募・通知の仕組みが整備されているので購入希望者への販売情報の周知は図られるが、私有林（特に、小規模所有者の森林）にあつては立木の売買情報が円滑に流通しない傾向が強い。

③森林所有者が幾ばくかの収入を期待して間伐林分を処分しようとしても、伐採・運搬コストが素材価格を上回る場合が多い現状にあつては立木売上の取り引きが成立しないことが多いのである。

④素材生産事業における生産コスト削減の方策の一つは、生産数量が多く見込める大面積に生立する立木を大型機械等の活用によつて一気に処理することであるが、大量の立木資材を購入するための資金の調達・確保が

困難である。

この立木調達段階における留意すべき事項は、立木所有者と立木購入希望者の間の立木売買に関する情報の疎通のあり方に絞られそうである。立木価格が極端に低い現状にあつては、立木所有者は売る意欲が湧いてこないのので買い手を捜すことはいないのである。もうすこし立木価格が上昇すれば立木所有者と購入希望者との間の行き違いも解消することになるであろう。

②素材生産段階

この段階における事業実行の成否を決めるキー・ポイントは、練磨された技術力と高性能の機械装備力に基づく高生産性の作業体系・仕組みを備えていることである。

①生産性向上への一層の努力が必要であるという認識の徹底を図ることである。

・高性能林業機械を活用した素材生産体制の確立と作業職員の技術・技能の向上。

・林内作業路網の整備・拡充。
・素材生産事業の後に続く森林作業に配慮した作業の実施。例えば、皆伐であるならば跡地造林を見据えた素材生産作業を、択伐・間伐であるならば残存林分の損傷を極力少なくしてその後の健全な成長を助長。

②わが県の森林資源の賦存状況・齢級配置および森林の多面的機能の発揮の観点から、非皆伐作業としての択伐や間伐が多くなることが予測されるので、択伐作業による残存林分の損傷を最少にするための作業仕組みや間伐作業における列状間伐の作業形態の導入、それも大型林業機械による作業体系を考える必要がある。

③作業コスト低減の観点から、検知業務の簡素化を図る必要がある。特に、これからは素材生産の対象になるのが圧倒的に人工林であり、天然林から生産される素材と異なり樹種的には針葉樹に限られるとともに品質等

は比較的均質である等の理由から検知のあり方を簡素化の方向で検討すべきである。

(3)素材流通段階

素材流通段階とは、ここでは素材生産現地から原木市場等や合板工場等素材需要先までの搬送を主として考えることにする。

近年、素材の需要構造の変化に伴い、素材流通の形態も少なからず変わってきている。例えば、国内の合板工場はこれまで原木のほとんどを輸入材に依存してきたが、最近は安定的に供給されるといふ条件のもとで国産材を使用する方向に向かつており、また、原木を大量に使用する集成材工場も国産材を積極的に集荷する傾向が顕著になってきている。これらの大型工場は、樹種別・品質別・径級等規格別に比較的小さな仕分けでの販売方法をとる国産材原木市場を原木供給先として考えていないようである。変化する素材流通形態を念頭に置いた素材生産

事業の運営を考えることが大切である。

①素材生産段階では樹種的にも品質的にも径級等規格的にも多種多様な素材が生産されるが、その場合、山元での需要先別の原木仕分けのあり方が素材運搬工程に大きな影響を及ぼすことになる。山元における原木仕分けの効率化が極めて重要である。

・山元での原木仕分けの効率化を考える場合に、単位あたりの素材販売価格を重要視して供給先別に多種の仕分けをするのか、単位あたりの価格についてあまり厳密には考えず供給先を特定して仕分け分類をできるだけ少なくするのか。このことは、素材生産箇所の樹種の多様性や素材の品質の程度、山元に置ける貯材能力等の条件によっても原木仕分けのあり方が変化することになる。

・山元からの素材搬送先が原木市場なのか工場への直送なのかでも山元での原木仕分けのあり

方や効率性も変化する。

②工場への直送方式の場合、搬送距離の長短や素材の運搬総量によって中間ストックヤード（中間土場）の配置を考えることが得策であることもあるであろう。なぜならば、搬送距離が長いときには大量に積載可能なトレーラー使用も考えられるが、山元に置ける積積状態、積み込み

今月のトピックス

「素流協」から

サワクルミ丸太の 出荷について

ホクヨープライウッド(株)に出荷しているサワクルミ丸太は特殊な合板資材として平成十五年十月より出荷が始まりました。

最近、丸太の品質がだんだん低下している旨クレームがありました。

規格は二〇cm上、節は一〇cm以下

機械の有無、林道等の搬出路の状況によっては大型トレーラー

の使用が不可能である場合が生じる。搬送距離の長さや山元まで大型トレーラーが入るかどうか等の各種条件を踏まえた中間ストックヤードの配置の最適化の検討が必要になる。

これまで述べてきた事柄について

下のもの二個までとなっております。

- ① 大きい節が多い
- ② 曲がりが多い
- ③ 二股のものがある等です。

- ① については 一〇cm以下二個まで
- ② については 二〇%以下

③ については 出荷しない(用材でない)を厳守して下さい。

このような状況が続きますと、

では素材生産事業を営む人にとつてごくごく常識的なことばかりであり、何を今さらと云う方々もあろうかと思うが、しかし、頭の中

で承知していることと実際に実行することとは別である。わたくし達にとつて生業(なりわい)でもある素材生産事業の活性化のため先に述べた常識的な事柄を着実に実行していただくことが大切である。

取引価格の見直しを迫られることにながりがかねませんので規格は厳守して下さい。



7月の販売実績 月間6,000m³を超える

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷した合板用丸太の平成16年7月の販売実績は下表の通りです。

7月の出荷も6月からの好調を維持し、月間の出荷実績が6,000m³を突破しました。

年間計画 49,000m³ ÷ 12月 = 4,083m³を2カ月連続してクリアしたことから計画量達成に益々明るさを増しております。

項目 樹種	長級 m	径級 cm	販売先		計 m ³	累計 m ³	出荷割合	
			ホクヨー プライ ウッド(株)	北日本 プラ イ ウ ッ ド (株)			樹種 毎 %	樹 長 級 毎 %
スギ	1.9	14上	1,407	630	2,037	5,646		29.9
	4.0	14上	809	640	1,449	4,517		
	計		2,216	1,270	3,486	10,163	53.9	
カラマツ	1.9	14上	1,557	479	2,036	5,934		31.5
	4.0	14上	0	164	164	240		1.3
	計		1,557	643	2,200	6,174	32.7	
アカマツ	1.9	16上	538	59	597	2,007		10.6
	4.0	16上	27	36	63	263		1.4
	計		565	95	660	2,270	12.0	
サワグルミ	1.9	20上	77	0	77	262	1.4	1.4
合計			4,415	2,008	6,423	18,869	100.0	100.0

編集後記

▽「森林は人類に先行し、荒野が人類と同行する」(アレキサンデル・フンボルト)という先人の言葉があるが、長い人類の歴史を俯瞰すると人類による森林破壊の歴史といわれても致し方なく、普遍的に認められる真実である。されど、現在の日本の森林は、農山村の過疎化、住む人が居なくなつて荒れ放題となつている。日本の農山村は人を求めている。

▽素流協の七月の月間素材販売量が六千四百m³と月間計画量を大幅に超えた実績を記録した。山崎専務の得意顔が目に見えるようだ。まずはお目出たいことであるが、

八月は長いお盆休みがあります。▽本紙一面記事「岩手県の素材生産事業の活性化に向かって」において県産材利用拡大についても述べているが、その場合に需要開拓が重要となつてくる。そこで留意すべきことは、これからの素材生産事業の対象が人工林主体となるとともに間伐事業量の増大から、並材・小径材・短尺材の比率が高くなる。したがって、素材の販売先の開拓については、このことを念頭に置くことである。